

指定特定相談支援事業所 指定(更新)申請書  
指定障害児相談支援事業所

年 月 日

生駒市長 殿

申請者  
(設置者)

所在地 (法人所在地)  
名称 (法人名)  
代表者 (代表者名)

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に規定する指定特定相談支援事業所及び児童福祉法に規定する指定障害児相談支援事業所に係る指定(更新)を受けたいので、下記のとおり、関係書類を添えて申請します。

申請者 (設置者)	フリガナ		法人名、法人所在地、代表者 ※定款、登記事項証明書等で確認する		
	名称				
	主たる事務所の所在地 (郵便番号 — )				
	法人である場合その種別		法人所轄庁		
	連絡先	電話番号	FAX番号		
	代表者の職・氏名	職名	フリガナ 氏名		
代表者の住所 (郵便番号 — )					
指定 (更新)を 受ける 事業の 種類	フリガナ		事業所名、事業所所在地 ※付表、運営規定の記載と一致すること		
	名称				
	事業所の所在地 (郵便番号 — )				
	事業の種類	実施 事業	指定申請をする事業の 事業開始予定年月日	様式	備考
特定相談支援事業			付表		
障害児相談支援事業			付表		
既に特定相談支援事業の指定を受けている場合は記載してください。					
事業所番号					指定年月日
既に地域相談支援事業(地域移行支援)の指定を受けている場合は記載してください。					
事業所番号					指定年月日
既に地域相談支援事業(地域定着支援)の指定を受けている場合は記載してください。					
事業所番号					指定年月日
介護保険法の居宅介護支援事業の指定を受けている場合は記載してください。					
事業所番号					指定年月日
介護保険法の介護予防支援事業の指定を受けている場合は記載してください。					
事業所番号					指定年月日

(備考)

同一地ですすでに他の事業の指定を受けているかどうかを確認し、該当するものがあれば記載する

- 「受付番号」欄には記載しないでください。
- 「法人である場合その種別」欄には、「社会福祉法人」「医療法人」「社団法人」「財団法人」「株式会社」「有限会社」等の別を記載してください。
- 「法人所轄庁」欄には、申請者が認可法人である場合に、その主務官庁の名称を記載してください。
- 「実施事業」欄には、今回申請をする相談支援事業の種類に「○」を記載してください。
- 「障害児相談支援事業」の指定を申請する場合は、「特定相談支援事業」の申請も併せて申請すること。

付表 指定特定相談支援事業所及び指定障害児相談支援事業所の指定に係る記載事項

受付番号

事業所	名称		事業所名、事業所所在地			
	所在地	(郵便番号 - )		※申請書、運営規定の記載と一致すること		
		連絡先	電話番号	FAX番号		
当該事業について定めてある定款・寄付行為等の条文			第 条 第 項 第 号			
管理者	フリガナ	住所	(郵便番号 - )			
	氏名		※勤務体制一覧表、管理者経歴書、役員名簿等の記載と一致すること			
	生年月日					
	当該事業所における相談支援専門員との兼務の有無			有 ・ 無		
	他の事業所又は施設の従業者との兼務(以下、有の場合記載)			有 ・ 無		
事業所の名称		兼務する職種				
事業の種類		勤務時間				
従事者 (人数・職種)			相談支援専門員		その他の者	
			専 従	兼 務	専 従	兼 務
	常勤(人)		1	1	※常勤換算は以下で計算する (従業者の4週の勤務時間)	
	非常勤(人)				÷(常勤者の4週の勤務時間)	
	常勤換算後の人数(人)		1	0.5		
他の事業所又は施設の従業者との兼務(有の場合、別紙に記載)			有 ・ 無			
総合的 な相談 支援 の 実施 方法	事業の主たる対象とする障害の種類 の定めの有無		有 ・ 無			
	主たる対象としていない者への 対応体制					
	医療機関や行政との 連携体制					
	計画的な研修又は当該事業所 における事例の検討等を行う体制					
主な 揭示 事項	営業日					
	営業時間					
	主たる対象者		特定無し ・ 身体障害者 ・ 知的障害者 ・ 精神障害者 ・ 障害児			
	その他の費用					
	通常の事業実施地域					
添付書類		別添のとおり(定款及び登記簿謄本又は条例等、事業所の平面図、運営規程、経歴書、入所者からの苦情を解決するために講ずる措置の概要、勤務体制・形態一覧表、資産状況(貸借対照表・財産目録等))				

(備考)

1. 特定相談支援事業と障害児相談支援事業の両方の指定を申請する場合についても、本様式1枚にまとめて提出してください。
2. 「受付番号」欄は、記入しないでください。
3. 「兼務」については、指定特定相談支援事業所、指定障害児相談支援事業所、指定一般相談支援事業所との兼務を除く。
4. 「総合的な相談支援の実施体制の具体的な方法」については、具体的な内容について記載する他、それぞれ根拠となる書類も提出してください。  
また、「主たる対象としていない者への対応体制」については、「事業の主たる対象とする障害の種類」の定め「有無」が有の場合に記載すること。
5. 「主な揭示事項」については、本欄の記載を省略し、別途資料として添付して差し支えありません。
6. 記入欄が不足する場合は、適宜欄を設けて記載するか又は別様に記載した書類を添付してください。

他の事業所又は施設の従業者と兼務する相談支援専門員を全て記載してください。					
1	氏 名		事業所の名称	□□生活介護事業所	
	フリガナ		事業の種類	生活介護	兼務する職種 サービス管理責任者
	氏名	□□ □□	勤務時間	9:00～17:00	
2	氏 名		事業所の名称	△△相談支援事業所	
	フリガナ		事業の種類	指定計画相談支援	兼務する職種 相談支援専門員
	氏名	△△ △△	勤務時間	9:00～15:00	
3	氏 名		事業所の名称	○○ハウス	
	フリガナ		事業の種類	共同生活援助	兼務する職種 世話人
	氏名	○○ ○○	勤務時間	17:00～19:00	
4	氏 名		事業所の名称		
	フリガナ		事業の種類		兼務する職種
	氏名		勤務時間		
5	氏 名		事業所の名称		
	フリガナ		事業の種類		兼務する職種
	氏名		勤務時間		

(様式第2号)

## 変更届出書

年 月 日

生駒市長 殿

※届出を行った日

事業 者 所在地

名称

代表者

次のとおり指定を受けた内容を変更しましたので届け出ます。

事業所番号	
指定内容を変更した事業所	名称 所在地
変更があった事項	変更の内容
1 事業所の名称	(変更前) (変更後)
2 事業所の所在地	事業所の所在地 生駒市〇〇町123-4 事業所の所在地 生駒市△△町567-8
3 申請者の名称	上記に伴う平面図、運営 規定の変更
4 主たる事務所の所在地	
5 代表者の氏名、生年月日、住所及び職名	
6 定款・寄付行為等及びその登記事項証明書又は条例等(当該指定に係る事業に関するものに限る。)	
7 事業所の平面図	
8 事業所の管理者の氏名、生年月日、住所及び経歴	
9 事業所の相談支援専門員の氏名、生年月日、住所及び経歴	
10 運営規程	
11 相談支援給付費の請求に関する事項	
12 役員の氏名、生年月日及び住所	
13 主たる対象者	
変更年月日	年 月 日

- 備考1 該当項目番号に○を付してください。  
2 変更内容がわかる書類を添付してください。  
3 変更の日から10日以内に届け出てください。

※変更の生じた日付

再開届出書

年 月 日

生駒市長 殿

事業 者 所在地

氏名  
代表者

次のとおり事業の再開をしたので届け出ます。

再開した事業所	事業所番号																		
	名 称																		
	所 在 地																		
再開した年月日	年 月 日																		

- (注) 1 当該事業に係る従業員の勤務の体制及び勤務形態が休止前と異なる場合には、勤務体制・形態一覧表を添付してください。  
2 再開した日から10日以内に届け出てください。

## 廃止・休止届出書

年 月 日

生駒市長 殿

事 業 者 所在地

氏名

代表者

次のとおり事業の廃止・休止をするので届け出ます。

事業所番号	
廃止・休止しようとする事業所	名 称
	所 在 地
廃止・休止しようとする年月日	年 月 日
廃止・休止しようとする理由	
現に指定計画相談支援又は 指定障害児相談支援を受けていた者 に対する措置	
休止予定期間	年 月 日～ 年 月 日

備考 廃止・休止しようとする日の1月前までに届け出てください。



(参考様式2)

〇〇〇

経歴書

「〇〇〇」には、「管理者」又は「相談支援専門員」と記載  
※下記欄外の備考欄参照

事業所の名称		
フリガナ		生年月日
氏名		年 月 日
住所	(郵便番号 - )	
電話番号		
主な職歴等		
年 月 ~ 年 月	勤務先等	職務内容
職務に関連する資格		
資格の種類	資格取得年月日	
備考（研修等の受講の状況等）		

- 備考1 「管理者」及び「相談支援専門員」について作成すること。
- 2 「〇〇〇」には、「管理者」又は「相談支援専門員」と記載してください。
- 3 住所・電話番号は、自宅のものを記載してください。
- 4 当該管理者が管理する事業所が複数の場合は、「事業所の名称」欄を適宜拡張して、その全てを記載してください。
- 5 相談支援専門員については、相談支援従事者初任者（現任）研修の終了した旨の証明書を添付すること。



(参考様式3)

# 実務経験証明書

生駒市長 殿

番 号  
年 月 日

施設又は事業所所在地及び名称

代表者氏名  
電話番号

※実務経験を証明する法人、施設、事業所  
が記入・捺印すること

印

下記の者の実務経験は、以下のとおりであることを証明します。

氏 名	(生年月日 年 月 日)
現 住 所	
施設又は事業所名	施設・事業所の種別 ( )
業 務 期 間	年 月 日～ 年 月 日 ( 年 月間)
うち業務に従事した日数	※1年間の実務経験 =実際に在籍した期間が1年以上かつ年間180日以上勤務していること
業 務 内 容	職名 ( ) ※どのような対象者に対してどのような業務にあっていたのかを具体的に記載 すること

- (注)
- 施設又は事業所名欄には、居宅介護、生活介護等の種別も記入すること。
  - 業務期間欄は、証明を受ける者が障害者に対する直接的な援助を行っていた期間を記入すること。(産休・育休・療養休暇や長期研修期間等は業務期間となりません)  
現在、既に必要とする実務経験期間を満たしている場合は、実務経験証明書作成日までの期間または、退職した日までの期間を記入してください。
  - 業務内容欄は、生活支援員、看護師等の職名を記入し、業務内容について具体的に記入すること。  
また、療養病床の病棟等において介護業務を行った場合は明記し、当該病棟が療養病床として許可等を受けた年月日を記入すること。
  - 証明内容を訂正した場合は、証明権者の職印を押印してください。なお、修正液による訂正は認められません。

(参考様式 3 - 2)

# 実務経験見込証明書

生駒市長 殿

番 号  
年 月 日

施設又は事業所所在地及び名称

代表者氏名

印

電話番号

下記の者の実務経験は、以下のとおりであることを証明します。

氏 名	(生年月日 年 月 日)
現 住 所	
施設又は事業所名	施設・事業所の種別 ( )
業 務 期 間	年 月 日 ~ 年 月 日 ( 年 月間)
うち業務に従事した日数	
業 務 内 容	職名 ( )

- (注) 1. 施設又は事業所名欄には、居宅介護、生活介護等の種別も記入すること。  
2. 業務期間欄は、証明を受ける者が障害者に対する直接的な援助を行うと見込まれる期間を記入すること。(産休・育休・療養休暇や長期研修期間等は業務期間となりません)  
3. 業務内容欄は、生活支援員、看護師等の職名を記入し、業務内容について具体的に記入すること。  
また、療養病床の病棟等において介護業務を行った場合は明記し、当該病棟が療養病床として許可等を受けた年月日を記入すること。  
4. 証明内容を訂正した場合は、証明権者の職印を押印してください。なお、修正液による訂正は認められません。

(参考様式 4)

平面図

事業所の名称	
--------	--



備考 1 各室の用途及び面積を記載してください。

2 当該事業所の専用部分と他の事業所等との共用部分がある場合はそれぞれ色分けする等して使用関係を分かり易く表示してください。

(参考様式5)

備品等一覧表

事業所名 ( )

設けられている室名	備品の品目及び数量

備考 1 必要に応じて写真等を添付し、その旨を合わせて記載してください。

(参考様式6)

<記載例>

利用者又はその家族からの苦情を解決するために講ずる措置の概要

事業所名

措置の概要

- 1 利用者又はその家族からの相談又は苦情等に対応する常設の窓口（連絡先）、担当者
  - ・相談、苦情に関する常設窓口として、相談担当者を設けている。また、担当者不在の場合で事業所の誰もが対応可能なように、相談苦情管理対応シートを作成し、担当者に確実に引き継ぐ体制を敷いている
  - 常設窓口 (電話) ○○○○-○○-○○○○
  - (FAX) ○○○○-○○-○○○○
  - 担当者 □□ □□ (又は、□□ □□)
  - ※利用者にはこの内容を印刷物で配布し、周知している
  
- 2 円滑かつ迅速に苦情を解決するための処理体制・手順
  - ・苦情又は相談があった場合、利用者の状況を詳細に把握するよう、必要に応じ、状況の聞き取りのための訪問を実施し、事情の確認を行う。
  - ・相談担当者は、把握した状況を管理者とともに検討を行い、対応を決定する。
  - ・対応内容に基づき、必要に応じて関係者への連絡調整を行うとともに、利用者へは必ず対応方法を含めた結果報告を行う。（時間を要する内容もその旨を翌日までに連絡する。）

※具体的な対応方針
  
- 3 その他参考事項
  - ・当事業所において、処理しえない内容についても、行政窓口等関係機関との協力により適切な対応方法を利用者の立場に立って検討し、退所する。

備考 上の事項は例示であるので、これにかかわらず適宜項目を追加し、その内容について具体的に記載してください。

(参考様式7)

## 主たる対象者を特定する理由等

事	業	所	名	
---	---	---	---	--

1 主たる対象者 ※該当するものを○で囲むこと。

身体障害者（肢体不自由 ・ 視覚 ・ 聴覚言語 ・ 内部障害）

知的障害者 ・ 精神障害者 ・ 障害児（ ）

※ 障害児について障害種別を特定している場合は、括弧内に記載。

2 主たる対象者を1のとおり特定する理由

3 今後における主たる対象者の拡充の予定

(1) 拡充予定の有無

あり ・ なし

(2) 拡充予定の内容及び予定時期

(3) 拡充のための方策

(参考様式 8)

# 指定特定相談支援事業者の指定に係る誓約書

年 月 日

生駒市長 殿

申請者 所在地  
名称  
代表者 住所  
氏名

印

当法人（別紙に記載する役員等を含む。）は、下記に掲げる障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第51条の20第2項において準用する同法第36条第3項（第4号、第10号及び第13号を除く。）の規定のいずれにも該当しないことを誓約します。

## 記

【障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第36条第3項（第4号、第10号及び第13号を除く。）の読替後の規定】

- 1 申請者が法人でないとき。
- 2 当該申請に係る特定相談支援事業所（第五十一条の二十第一項に規定する特定相談支援事業所をいう。以下この項において同じ。）の従業者の知識及び技能並びに人員が、第五十一条の二十四第一項の厚生労働省令で定める基準を満たしていないとき。
- 3 申請者が、第五十一条の二十四第二項の厚生労働省令で定める指定計画相談支援の事業の運営に関する基準に従って適正な特定相談支援事業の運営をすることができないと認められるとき。
- 5 申請者が、この法律その他国民の保健医療若しくは福祉に関する法律で政令で定めるものの規定により罰金の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなるまでの者であるとき。
- 6 申請者が、第五十条第一項（同条第三項において準用する場合を含む。以下この項において同じ。）又は第五十一条の二十九第一項若しくは第二項の規定により指定を取り消され、その取消の日から起算して五年を経過しない者（当該指定を取り消された者が法人である場合においては、当該取消の処分に係る行政手続法（平成五年法律第八十八号）第十五条の規定による通知があった日前六十日以内に当該法人の役員又はその特定相談支援事業所を管理する者その他の政令で定める使用人（以下「役員等」という。）であった者で当該取消の日から起算して五年を経過しないものを含み、当該指定を取り消された者が法人でない場合においては、当該通知があった日前六十日以内に当該者の管理者であった者で当該取消の日から起算して五年を経過しないものを含む。）であるとき。ただし、当該指定の取消しが、指定特定相談支援事業者（第五十一条の十七第一項第一号に規定する指定特定相談支援事業者をいう。以下この項において同じ。）の指定の取消しのうち当該指定の取消しの処分の理由となった事実及び当該事実の発生を防止するための当該指定特定相談支援事業者による業務管理体制の整備についての取組の状況その他の当該事実に関して当該指定特定相談支援事業者が有していた責任の程度を考慮して、この号本文に規定する指定の取消しに該当しないこととすることが相当であると認められるものとして厚生労働省令で定めるものに該当する場合を除く。
- 7 申請者と密接な関係を有する者（申請者（法人に限る。以下この号において同じ。）の株式の所有その他の事由を通じて当該申請者の事業を実質的に支配し、若しくはその事業に重要な影響を与える関係にある者として厚生労働省令で定めるもの（以下この号において「申請者の親会社等」という。）、申請者の親会社等が株式の所有その他の事由を通じてその事業を実質的に支配し、若しくはその事業に重要な影響を与える関係にある者として厚生労働省令で定めるもの又は当該申請者が株式の所有その他の事由を通じてその事業を実質的に支配し、若しくはその事業に重要な影響を与える関係にある者として厚生労働省令で定めるものうち、当該申請者と厚生労働省令で定める密接な関係を有する法人をいう。）が、第五十条第一項又は第五十一条の二十九第一項若しくは第二項の規定により指定を取り消され、その取消の日から起算して五年を経過していないとき。ただし、当該指定の取消しが、指定特定相談支援事業者の指定の取消しのうち当該指定の取消しの処分の理由となった事実及び当該事実の発生を防止するための当該指定特定相談支援事業者による業務管理体制の整備についての取組の状況その他の当該事実に関して当該指定特定相談支援事業者が有していた責任の程度を考慮して、この号本文に規定する指定の取消しに該当しないこととすることが相当であると認められるものとして厚生労働省令で定めるものに該当する場合を除く。
- 8 申請者が、第五十条第一項又は第五十一条の二十九第一項若しくは第二項の規定による指定の取消しの処分に係る行政手続法第十五条の規定による通知があった日から当該処分をする日又は処分をしないことを決定する日までの間に第四十六条第二項又は第五十一条の二十五第二項若しくは第四項の規定による事業の廃止の届出をした者（当該事業の廃止について相当の理由がある者を除く。）で、当該届出の日から起算して五年を経過しないものであるとき。
- 9 申請者が、第四十八条第一項（同条第三項において準用する場合を含む。）又は第五十一条の二十七第一項若しくは第二項の規定による検査が行われた日から聴聞決定予定日（当該検査の結果に基づき第五十条第一項又は第五十一条の二十九第一項若しくは第二項の規定による指定の取消しの処分に係る聴聞を行うか否かの決定をすることが見込まれる日として厚生労働省令で定めるところにより都道府県知事又は市町村長が当該申請者に当該検査が行われた日から十日以内に特定の日を通じた場合における当該特定の日をいう。）までの間に第四十六条第二項又は第五十一条の二十五第二項若しくは第四項の規定による事業の廃止の届出をした者（当該事業の廃止について相当の理由がある者を除く。）で、当該届出の日から起算して五年を経過しないものであるとき。
- 11 申請者が、指定の申請前五年以内に相談支援に関し不正又は著しく不当な行為をした者であるとき。
- 12 申請者が、法人で、その役員等のうちに第五号、第六号、第八号、第九号又は前号のいずれかに該当する者のあるものであるとき。

(参考様式 9)

# 指定障害児相談支援事業者の指定に係る誓約書

年 月 日

生駒市長 殿

申請者 所在地  
名称  
代表者 住所  
氏名

印

当法人（別紙に記載する役員等を含む。）は、下記に掲げる児童福祉法第24条の28第2項において準用する同法第21条の5の15第2項（第4号、第11号及び第14号を除く。）の規定のいずれにも該当しないことを誓約します。

## 記

【児童福祉法第21条の5の15第2項（第4号、第11号及び第14号を除く。）の読替後の規定】

- 1 申請者が法人でないとき。
- 2 当該申請に係る障害児相談支援事業所（第二十四条の二十八第一項に規定する障害児相談支援事業所をいう。以下この項において同じ。）の従業者の知識及び技能並びに人員が、第二十四条の三十一第一項の厚生労働省令で定める基準を満たしていないとき。
- 3 申請者が、第二十四条の三十一第二項の厚生労働省令で定める指定障害児相談支援の事業の運営に関する基準に従って適正な障害児相談支援事業の運営をすることができないと認められるとき。
- 5 申請者又は申請者の役員等が、この法律その他国民の保健医療若しくは福祉に関する法律で政令で定めるものの規定により罰金の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなるまでの者であるとき。
- 6 申請者が、第二十四条の三十六の規定により指定を取り消され、その取消の日から起算して五年を経過しない者（当該指定を取り消された者が法人である場合においては、当該取消しの処分に係る行政手続法（平成五年法律第八十八号）第十五条の規定による通知があつた日前六十日以内に当該法人の役員又はその障害児相談支援事業所を管理する者その他の政令で定める使用人（以下この条及び第二十一条の五の二十三第一項第十一号において「役員等」という。）であつた者で当該取消しの日から起算して五年を経過しないものを含む。）であるとき。ただし、当該指定の取消しが、指定障害児相談支援事業者（第二十四条の二十六第一項第一号に規定する指定障害児相談支援事業者をいう。以下この項において同じ。）の指定の取消しのうち当該指定の取消しの処分の理由となつた事実及び当該事実の発生を防止するための当該指定障害児相談支援事業者による業務管理体制の整備についての取組の状況その他の当該事実に関して当該指定障害児相談支援事業者が有していた責任の程度を考慮して、この号本文に規定する指定の取消しに該当しないこととすることが相当であると認められるものとして厚生労働省令で定めるものに該当する場合を除く。
- 7 申請者と密接な関係を有する者（申請者（法人に限る。以下この号において同じ。）の株式の所有その他の事由を通じて当該申請者の事業を実質的に支配し、若しくはその事業に重要な影響を与える関係にある者として厚生労働省令で定めるもの（以下この号において「申請者の親会社等」という。）、申請者の親会社等が株式の所有その他の事由を通じてその事業を実質的に支配し、若しくはその事業に重要な影響を与える関係にある者として厚生労働省令で定めるもの又は当該申請者が株式の所有その他の事由を通じてその事業を実質的に支配し、若しくはその事業に重要な影響を与える関係にある者として厚生労働省令で定めるもの）のうち、当該申請者と厚生労働省令で定める密接な関係を有する法人をいう。）が、第二十四条の三十六の規定により指定を取り消され、その取消の日から起算して五年を経過していないとき。ただし、当該指定の取消しが、指定障害児相談支援事業者の指定の取消しのうち当該指定の取消しの処分の理由となつた事実及び当該事実の発生を防止するための当該指定障害児相談支援事業者による業務管理体制の整備についての取組の状況その他の当該事実に関して当該指定障害児相談支援事業者が有していた責任の程度を考慮して、この号本文に規定する指定の取消しに該当しないこととすることが相当であると認められるものとして厚生労働省令で定めるものに該当する場合を除く。
- 8 申請者の役員等が、第二十一条の五の二十三第一項の規定による指定の取消しの処分に係る行政手続法（平成五年法律第八十八号）第十五条の規定による通知があつた日前六十日以内に当該取消しの処分を受けた法人の役員等であつた者で、当該取消しの日から起算して五年を経過しないものであるとき。
- 9 申請者が、第二十四条の三十六の規定による指定の取消しの処分に係る行政手続法第十五条の規定による通知があつた日から当該処分をする日又は処分をしないことを決定する日までの間に第二十四条の三十二第二項の規定による事業の廃止の届出をした者（当該事業の廃止について相当の理由がある者を除く。）で、当該届出の日から起算して五年を経過しないものであるとき。
- 10 申請者が、第二十四条の三十四第一項の規定による検査が行われた日から聴聞決定予定日（当該検査の結果に基づき第二十四条の三十六の規定による指定の取消しの処分に係る聴聞を行うか否かの決定をすることが見込まれる日として厚生労働省令で定めるところにより市町村長が当該申請者に当該検査が行われた日から十日以内に特定の日を通知した場合における当該特定の日をいう。）までの間に第二十四条の三十二第二項の規定による事業の廃止の届出をした者（当該事業の廃止について相当の理由がある者を除く。）で、当該届出の日から起算して五年を経過しないものであるとき。
- 12 申請者が、指定の更新の申請前五年以内に障害児相談支援に関し不正又は著しく不当な行為をした者であるとき。
- 13 申請者が、法人で、その役員等のうちに第五号、第六号、第九号、第十号又は前号のいずれかに該当する者のあるものであるとき。